



# やり取りのある場面設定でいきいきトーク



～南風原町立南風原中学校 阿波根民子教諭の本検証授業(1/26PM)～

1月26日(金)の午後は、検証保育・検証授業の最終日。5人の検証保育・授業の大トリを務めたのは南風原中学校阿波根民子教諭。

阿波根教諭は、これからのグローバル社会の中で英語で主体的にコミュニケーションを行うことができる生徒を育てるために研究を進めています。これまでの文法を中心とした指導から脱却し、文法の知識を活用してコミュニケーションを行う英語学習に切り替えるために次の点を工夫しました。①コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にして即興で話す場面を作る。②教師と生徒、生徒同士のやり取りがある場面設定を工夫し、段階的に指導する。以上2点です。

授業では、学校近くで撮影した本人出演の手作りビデオで会話のモデルを示し、与えられたトピックについて生徒同士ペアでやり取りを行いました。生徒達は笑顔でやり取りを楽しんでいる様子で、自分が知っている表現を用いて(間違ふことを恐れず)相手に一生懸命伝えようとする姿が見られました。

授業研究会には17名の英語研究会の会員が参加し、これまでにない熱気の中、熱心な協議が展開されました。阿波根先生の効果的な場面設定と段階的指導に関する質問や「単語で会話する生徒の指導をどうするか」という課題もあがりしました。

指導講師の琉球大学大城賢教授からは、「外国語は言葉の学習である。言葉の役割を意識する」「教室は言葉を使う場。使わせないと使えない。今日のようなやり取りのある授業を続けることが大事」と参加者にエールが送られました。

淵田立身校長からも「これからは聞ける・話せる人材づくりを」という激励の言葉をいただきました。



掲示物やICT機器が効果的に授業に活きる

## <研究テーマ>

生徒が主体的に英語で  
コミュニケーションを行う学習指導  
～やり取りのある場面設定の工夫と  
段階的指導を通して～

## <研究仮説>

英語の学習において、やり取りのある場面設定の工夫と段階的指導を行うことで生徒が主体的に英語でコミュニケーションを行うことができるであろう。



はにかみながらも笑顔でやり取り



春乃先生との息もぴったり



指導講師 大城賢 琉球大学教授

## 検証授業を終えて(阿波根民子教諭)

本検証授業を終え、2年5組で事後アンケートを実施しました。生徒達の本検証授業での頑張りを感謝の気持ちと共に伝えました。アンケートの集計はまだですが、生徒達はペアでのやり取りが楽しかったようで、今後も授業でやり取りを取り入れてほしいという声が多かったのでとても嬉しく思います。そういう生徒達の声を大切に今後も授業作りを頑張っていきたいと思います。やり取りの授業を通して、実際に授業を進めながら課題もありました。次はこの課題をどう解決していけるのか考えていきたいです。